

本書はなぜ「今までにない」前置詞の本なのか

これまで私が書いた前置詞の本は、どちらかといえば前置詞を on, in, by …などと個別の形で紹介してきました。

本書は、より丁寧に前置詞本来の意味を解説しているのはもちろん、前置詞を大局的にとらえて、点から線へ、線から範囲へと解説している点で、これまでの前置詞関連書とは異なります。

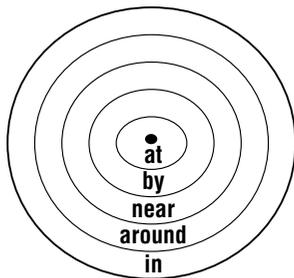
atは「一点」を表す。

atよりも幅を持たせた前置詞が**by**である。

atが一点を表すとき、**by**は「そのそばに」を意味する。「そばに」ということは、「目的地よりも少し過ぎたところ」を意味すると同時に、「目的地よりも少し手前で」という意味が出てくるのです。

byよりも幅を持たせた前置詞が**near**であり、**around**です。

さらに、**near**, **around**よりも**in**の方がさらに広域を表す前置詞です。



atは一点を表し、その「**at**の位置から」という「**起点**」を表す前置詞が**from**です。

そして、「**着点**」は**to**という前置詞を用います。

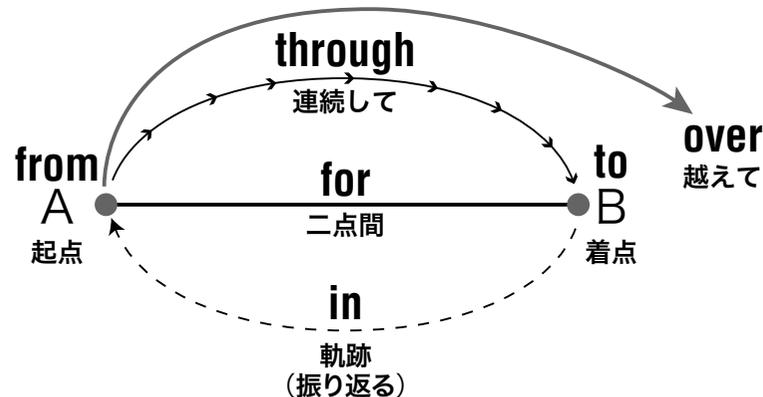
「**着点**」から「**起点**」の方向を回顧すると、着点までに至った軌跡ができ、この「**軌跡**」を**in**といいます。

そして、「**起点**」から「**着点**」のすべての**範囲**を**for**という前置詞で表します。

起点か**着点**を表すとき、「**起点**」から「**着点**」まで「**連続して**」何が行われる場合は**from A through B**を用います。

そして、「**着点の時を越えて**」を表す前置詞に**over**があります。**over years**とやると「**幾年をも越えて**=**何年もの間**」を意味します。

したがって、**over**では「いつまで」という区切りを表すことができないこととなります。「いつからいつまで」を明確にする場合は、**from A to B**あるいは**from A through B**を用います。



🔄 前置詞は「進む」「連続する」!

英語の前置詞は、「進む」「連続する」という観点から整理することもできます。次のように考えてみましょう。

atの位置(一点)から「進む」「過ぎる」はbyを用い、

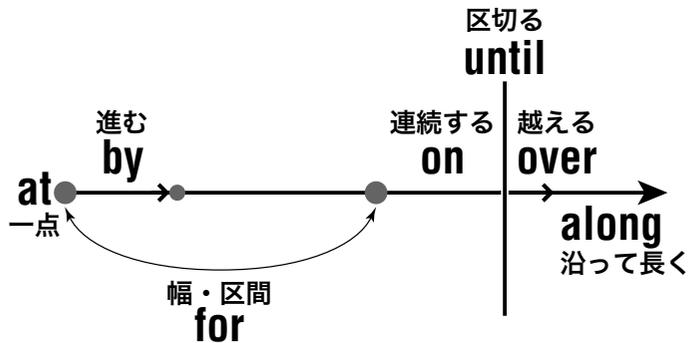
「ここからここまで」という連続する時間・距離の「幅・区間」はforで表し、

それがさらに連続していくとonになります。

しかし、onは「連続する」という意味では、とどまるところを知りません。

そこで、時計の針の進行方向に「ここまで」と「区切り」をもうける場合はuntilという前置詞を用います。

そして、ある時を越えて連続するとoverになります。



また、atという「一点」の位置から「線」へと広がる意味を持つ前置詞があります。それが**along**です。

alongは「あるものに平行して」「あるものに沿って」「ある時から時間が経過して」を意味します。alongはa-が「目的とするもの」を表し、-longで「長い」の意味から、「あるものに沿って長く」を表すのです。

along the bankは「堤に沿って」「土手伝いに」を表し、Time is moving along.とやると、「時間がだいたい経過している」ことを表します。



こうして考えると、前置詞は、

「点」から「線」へ
そして、
「線」から「範囲(または円)」へと広がる
「静」と「動」

を意味するのです。

このように、前置詞と前置詞の因果関係を明らかにし、点から線へ、線から範囲へという前置詞の本来の意味の広がりを立体的に解説するという点で、本書は前置詞の集大成をなすものです。